

これでバッチリ釣れる！

へらエサ マニュアル 徹底解説

Vol.8

バラケとグルテンの セット釣り



つれるエサづくり一筋
マルキュー

本社・桶川工場 埼玉県桶川市赤堀2-4 〒363-8509
TEL : (048) 728-0909(代) FAX : (048) 728-3909
<http://www.marukyu.com/>

バラケとグルテンのセット釣りとは...

冬場はヘラブナの活性が落ちるため、簡単にエサに飛びつかなくなるものです。エサの周りに寄ってもなかなかサワリが出ないこの時季は、集魚を高めることがポイントになります。それにはさなぎ粉が多く入っているバラケが効果的。宙釣りではサラサラと麩の粒子が下にバラけるエサで、底釣りでは膨らむバラケに刺激されて、それを追いながら下バリのグルテンを食わせる、というのがバラケとグルテンのセット釣りです。釣り方を問わずタナにヘラブナを寄せ続けて、下のグルテンを食わせるというのはヘラブナ釣りの基本とっていいでしょう。ですから冬の管理釣り場だけでなく、野釣りでは年間を通してこの釣り方が威力を発揮するのでオールラウンドの釣り方といえます。



Step.1

どんな時に効果的なの？

一般的に管理釣り場では、水温が低下する12月頃から。しかもグルテンを好む新ベラが放流されていれば一層効果があります。長ザオの宙釣りから段差の底釣りまで幅広い釣り方に対応できるだけでなく、落ち込みの早いアタリが狙えるのもメリットです。また、野釣りでは厳寒期から乗っ込み時の底釣り、夏から秋にかけての宙釣りにと、釣り場を選ばないだけでなく、待ち釣りやジャミが騒がしい時にもこの釣り方が有効になります。

Step.2

他のくわせとの違いは？

グルテンとはマッシュポテトにグルテン粉をブレンドしたエサ。水中へ入ると膨らむようにしてマッシュの粒子が抜けて、ハリのフトコロにグルテン繊維がまとわりつくように残ります。そのためグルテンはウドン系と比較するとそれ自体に集魚効果があるだけでなく、軽くて吸い込みがいい特長を備えています。加えて、釣況に応じて硬め、軟らかめの調整が水の量を変えるだけで簡単にできます。エサ付けする時にも手もみをていねいに行えばハリ持ちが寄りなり、ラフ付けすれば抜けの早いエサに変身します。アタリの出方をエサ付けで調整できる。このようなところもグルテンの優れている点です。

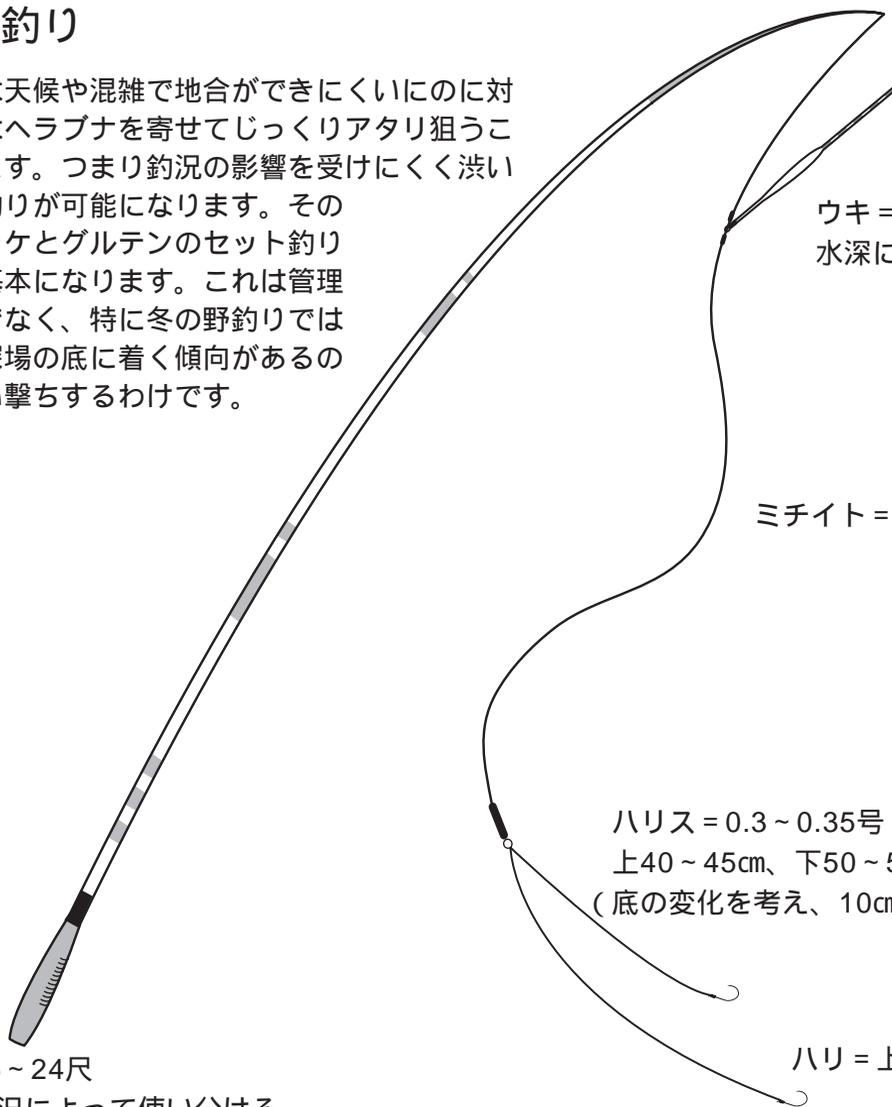
Step.3

基本は底釣り

宙釣りでは天候や混雑で地合ができにくいのにに対し、底釣りはヘラブナを寄せてじっくりアタリ狙うことができます。つまり釣況の影響を受けにくく渋い中でも待ち釣りが可能になります。そのことからバラケとグルテンのセット釣りは底釣りが基本になります。これは管理釣り場だけでなく、特に冬の野釣りではヘラブナは深場の底に着く傾向があるのでそれを狙い撃ちするわけです。

サオ = 16 ~ 24尺

水深と状況によって使い分ける。



ウキ = ボディ(羽根部分)12 ~ 18cm
水深によって使い分ける。

ミチイト = 0.8号

ハリス = 0.3 ~ 0.35号

上40 ~ 45cm、下50 ~ 55cm

(底の変化を考え、10cm段差が目安)

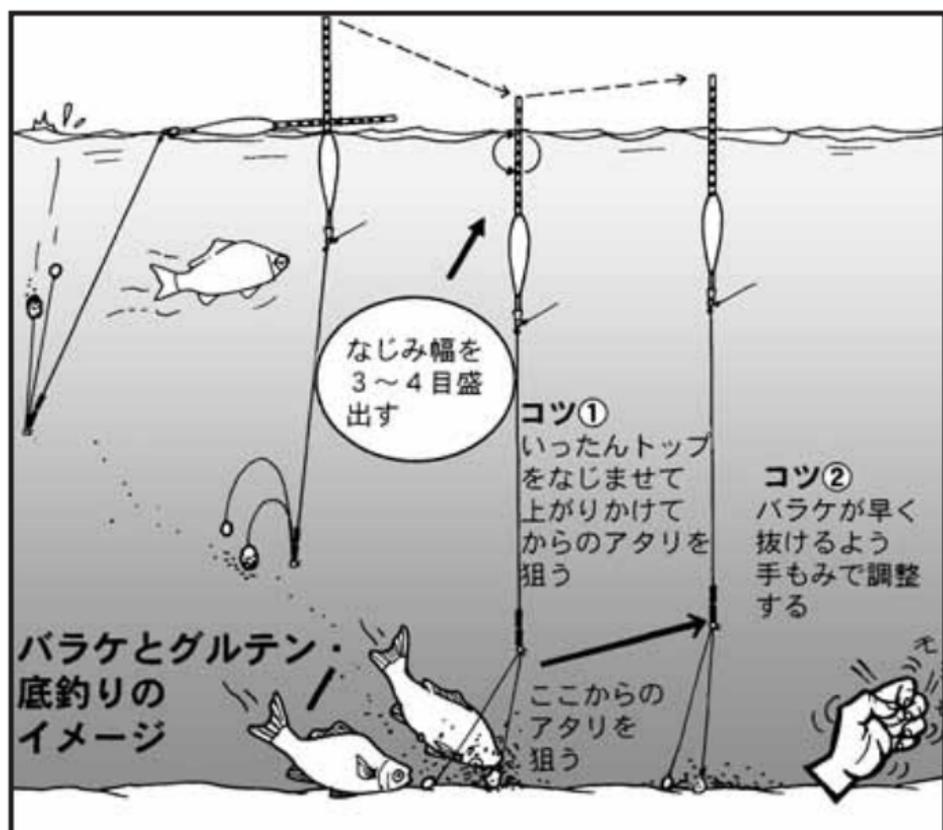
ハリ = 上下4 ~ 5号(ヤラズタイプ)

Step.4

底釣り・釣り方のコツは？

バラケとグルテンにはそれぞれの役目があります。バラケはヘラブナを寄せるエサで、寄ったヘラブナに食わせるのがグルテンです。

底釣りではまずウキを3～4目盛りしっかりなじませること。そして、できるだけ早くバラケを抜いてグルテンだけにすることです。その理由はエサ持ちが良過ぎるとバラケにアタるのでカラブリが多くなりウワズリの原因にもなるためです。ですからセオリーは早いアタリを送り、エサ落ち目盛り付近までトップが上がってからの動きを狙う。これがコンスタントに釣るツボです。



【バラケ】

「ダンゴの底釣り夏」200cc +
「バラケマツハ」600cc + 水200cc



+



+



How to make

粉のうちに良くかきまぜ水を加える。指をくま手状にして30～40回かき混ぜる。全体がサラッとした感じができれば出来上がり。使う分だけ手の甲でエアーを抜いてエサ付けをする。

【くわせ】

「いもぶに」50cc + 「新べらグルテン」50cc + 水110cc



+



+



How to make

粉のうちに良くかき混ぜ、水を入れたら指先で10回ほど混ぜて全体に水分を浸透させる。固まったらほぐして使う分だけ手の甲で押してエアーを抜く。

こうやって釣ろう。釣り方のコツ！

タナは上バリトントン。バラケはギンナン粒大、グルテンはパチンコ玉大で釣り始めよう！

なじみ幅は3～4目盛りが目安。これが少ないといきなりウワズリになるので、バラケに手もみを加えよう！

落ち込みからサワリがあってもトップをなじませ、そして1～2目盛り戻してからのムズッと入るアタリを狙おう！

カラブリが続くようなら、グルテンの手もみを少なくするか、ひと回り小さくエサ付け！

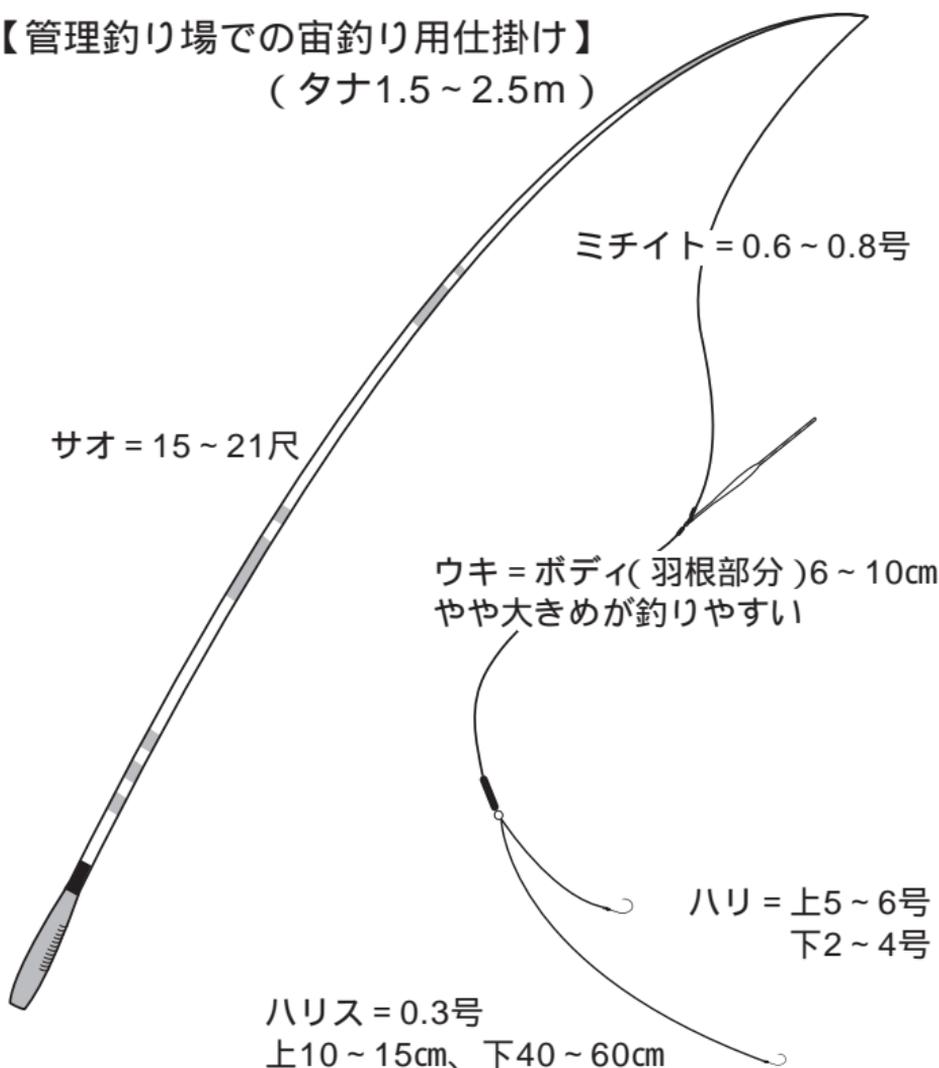
明確なアタリが出ない時は、エサ落ち目盛りの確認とタナを測り直してみることに！

Step.5

管理釣り場で効く浅宙釣り!!

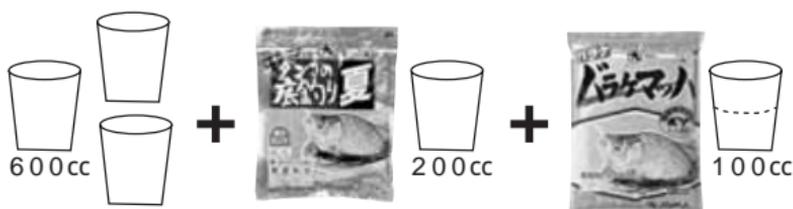
現在の管理釣り場で流行なのはバラケとウドンのセット釣りです。ですが新ベラを放流した時、これらの放流ベラが沖目の底や宙層に着いているケースでは、この釣り方が面白くなります。旧べらよりも比較的簡単に釣れ、しかも重量が伸びるので一発当たれば大釣りのチャンス。アタリが複雑になれば、簡単に両グルテンの釣りにもチェンジできるのも、この釣り方の利点です。

【管理釣り場での宙釣り用仕掛け】 (タナ1.5~2.5m)



【バラケ】

「セット専用バラケ」600cc + 「ダンゴの底釣り夏」
200cc + 「バラケマツハ」100cc + 水240cc



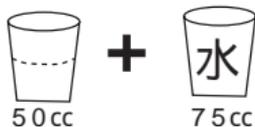
How to make

粉のうち全体をよくかき混ぜたのち、
水ほ加えてくま手状の指で30回ほどか
き混ぜる。ダマがなく全体がサラッと
した感じになれば出来上がり。



【くわせ】

「いもぶに」50cc + 水75cc



How to make

粉に水を加えたら指先で水が全
体に浸透するよう10回ほどかき
混ぜて1分ほど放置する。使う
ときは端からつまんでエサ付け
をする。

こうやって釣ろう。釣り方のコツ！

バラケは人差し指の頭大、グルテンはパチンコ玉にエサ付け！
打ち始めは4～5目盛りのなじみ幅が出るように！

サワリがでるとなじみ幅が少なくなるので、バラケの手もみを
多くして3～4目盛りのなじみ幅を心掛けよ！

トップがなじんだ瞬間、もしくは1～2目盛り戻した時のムズ
ッ、フッと小さく入るアタリを狙え！

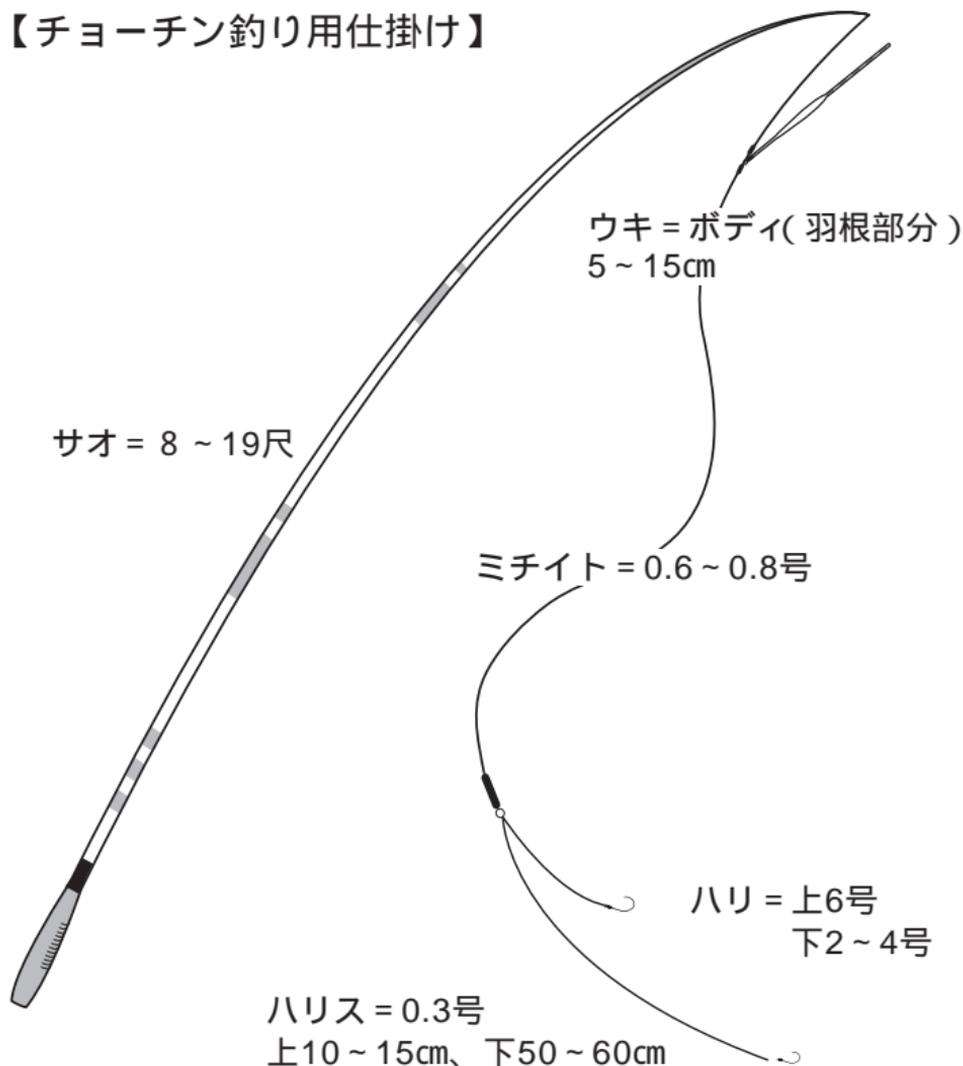
ハリスの段差もアタリの出方に影響するので、決めアタリが出
なければ下のハリスを5cmずつ長くして様子を見よう！

Step.6

チョーチン釣りも効果的

水深が5 m以上もある釣り場ではチョーチン釣りも見逃せません。これらの釣り場は大型のヘラブナを中心に放流しているところが多く、水温の変化に敏感な大型は冬だからといって必ず底に着くということはありません。底よりやや上の層にしているヘラを狙うにはチョーチン釣りが最適。泳層は日によって変化するので短ザオから長ザオを使い分けて、サワリが続くタナをキャッチする、というのがここでのコツです。

【チョーチン釣り用仕掛け】



【バラケ】

「特S」200cc + 「ダッシュ」400cc +
「段差バラケ」400cc + 水200cc



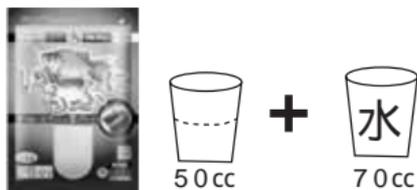
How to make

粉のうちに良くかき混ぜ水を加える。指をくま手状にして30~40回強くかき混ぜ、指にまとわり付く感じが出れば出来上がり。



【くわせ】

「いもぶに」50cc + 水70cc



How to make

水を加えたら素早くかき混ぜ、硬めに仕上がったものを端からつまんでエサ付けをする。

こうやって釣ろう。釣り方のコツ！

打ち始めのバラケは親指の頭大。角ばらせてエサ付け。くわせは大豆粒大にていねいに丸める！

サワリが強くなるといエサ持ちが悪くなるので、バラケは一回り小さくしたものをていねいにまるめてハりに付け！

アタリはなじんだ瞬間からトップが半分ほど戻った間の、小さくても鋭いものを狙う！

サワリが切れる場合は、なじみ幅が少なくなる範囲で、バラケを角ばらせてエサ付け！

サワリが強ければ上ハリスを3cmずつ短く。トップがなじんでモヤモヤで終わる時はグルテンがもまれているので、下ハリスも短くしよう！

最新爆釣テク!!

「グルテン使い分け術!!」

グルテンの使い方の急所

練り込んで使うグルテンもありますが、基本は出来上がったものを軽く手もみをしてエサ付けをします。ですがエサ持ちが弱いとつい練り込みたくなるもの。一般的にグルテンは練り込むとマッシュの抜けが少なくなりカラツンの原因にもなります。

このような時にはグルテン量の多いものをブレンドするのがポイントです。言い換えればエサの持たせ方は練るのではなく、グルテン繊維の強さで持たすわけです。例えば、抜けの良い「新べらグルテン」と繊維の強い「グルテン 21」をブレンドした場合、柔らか目で抜けを良くしたい時には7対3の割合で、食い渋りでエサ持ちを良くしたければ4対6といったように、ひとつのブレンドでもエサの持ち方が、がらりと変わるのがグルテンです。ここの使い方をマスターすることがグルテンを使いこなすコツといえます。

宙釣りでアタリが決まらない時

こんな時は硬めを小さくエサ付けをする

「グルテン 21」50cc + 水60cc

水を加えたら指先で素早くかき混ぜる。全体が固まったら端からつまんで小豆粒大にエサ付けをする。硬めのエサは変化が激しいので、アタリがボケたらすぐに作り代えること。



柔らかいエサが良い時

「ぷにくる」50cc + 水80cc

全体が固まってから濡れた手でもみ込んでいく。練りこんでも抜けの良さは変わらないのでアタリが明確に出るところまで繰り返す。柔らかいエサは大きく付けるのが基本なので人差し指の頭大が目安。

